

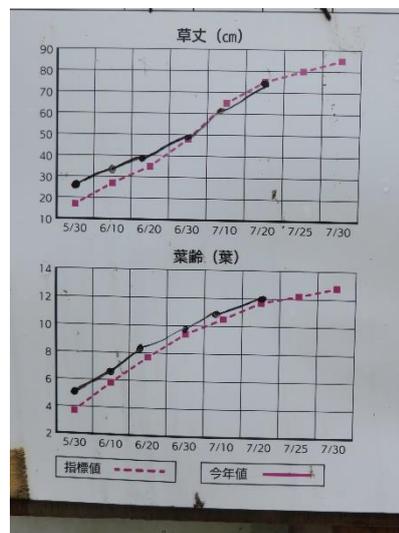
南魚沼産コシヒカリ 産地情報No. 4

6月11日に梅雨入りした新潟県を含む北陸地方は、7月31日現在においても未だ梅雨明けの発表がありません。時折、好天の日があったものの、曇り空や雨の日が多く、ジメジメと湿気の多い日が続いています。昨年は7月24日頃に梅雨明けし、本格的な夏を迎えましたが、今年の梅雨明けは8月以降になりそうです。



当JAが管内の21カ所に設けた水稻調査圃場においては、定期的に稲の生育に関する情報を公表しています。直近の7月20日現在では、草丈は概ね基準値と同じ76.8cm、葉齢（親茎の葉の枚数）も基準値と同じ12枚となっています。また、今年の生育状況から見て、稲の穂が顔を出す出穂期の予想は前年並みの8月4日頃を見込んでいます。

この調査圃場を参考に農作業の計画を立てる農家も多く稲作指導の一役を担っています。



いよいよ、新型コロナウイルス感染症予防のため開催を見送っていた各種指導会が始まりました。7月11日～14日には、コシヒカリの栄養を維持するための「穂肥」に関する指導会が実施されました。この「穂肥」は、コシヒカリの生育診断に基づいて実施されます。必要以上に栄養分を与えるとモミが過剰についてしまい、品質低下の原因となります。また、栄養不足も品質の低下につながります。草丈や葉の色の状態により施用する量の変動するため、指導員の説明に熱心に耳を傾けています。



また、7月23日には令和2年産米の品質向上に向けた品質向上研修会が開催されました。コシヒカリの品質を大きく左右する、生育後期までの栄養確保に関するポイントを肥料メーカーの担当者が説明し、JAの指導員は、今年は梅雨明けが遅れており、稲の病気や害虫の発生が懸念されるため、防止に向けた情報提供がなされました。



今後1カ月がコシヒカリの品質に影響を与える最も重要な時期となります。農家とJAが情報交換・連携を強めながら、南魚沼産コシヒカリ栽培の仕上げに努めます。